



町民の声

「多角的視点での 廃校活用を」

廃校利活用検討委員会
副委員長

正野直弥 さん
(七日町 64歳)

この度、廃校利活用検討委員に応募させていただきました。一般町民の立場として、皆さんの様々な意見や思いを、検討委員会で伝えることが役割だと思っています。

9月7日に第1回検討委員会が開催され、「学校施設は地域の核であり、できれば残したいが管理していくには負担感がある。」という意見が多く、企業誘致を図るという提案のほか、複数活用案が出されました。今後も町財政にとって無理のない活用策を検討していく必要があると思います。

広報や議会だよりでも知らされているように、現在、町の財政状況は良いとは言い難いと認識しています。町としても令和元年を「財政健全化元

年」と位置づけている状況にあって、活用策は町の財政状況と整合性の取れたものであることが前提だと思っています。

学校施設のような大規模施設は改修はもちろん、維持管理にも多大な経費が見込まれ、負担できないのであれば民間資本を受け入れることを検討してもよいのではないかと思います。地域を長年支えてきた学校施設には皆さんの思いがたくさん詰まっています。それらの今後の活かし方について、まずは多角的に意見を交えることがもっとも重要であり、十分な議論が必要だと思っています。

できるだけ多くの町民の皆さんの意見を頂き、町の意見と合わせながら、未来を担う子どもたちの将来的な負担にならないよう、方向性を見出ししていくことが大事だと思っています。



令和4年度から統合予定の明安小学校と有屋小学校

議会新豆知識 No.6

● 討論と議論

議会の大切な仕事のひとつとして、議案の審議がある。審議までの大まかな流れは、町長が議案を上げ、提案理由の説明をした後、議員の質問に町長が答える質疑・答弁を経て、議員が賛成・反対の意思表明（討論）をして、最後に可否を決める採決となる。

町議会での討論とは、お互いに議論を交わし合うことではなく、賛否の理由を述べることにより、自分の意見に賛成・同調することを他の議員に求めることであり、議案に対して賛成か反対か、自分の意見を表明することが討論となる。これに対して、賛成反対に関係なく意見を出し合うのが議論となる。

つまり、討論と議論の違いは、一つのテーマに対して、「反対、賛成」に分かれ意見を戦わせることが討論、全員で意見を出し合い、相手の意見に対して思う事を述べ合い、最終的に、全員が納得するような結論を導き出すことが議論であり、討論と議論は異なるものとなる。

12月議会定例会は12月4日(金)～8日(火)の予定です

町民の皆様の傍聴をお待ちしています

日程は近くなりましたら町ホームページ内の議会ページでお知らせします。

ゼインコラム No.6

安倍晋三総理が、体調を崩し突然の退陣に国民は驚いた。菅義偉官房長官が、自民党総裁に選出され9月16日の国会で第99代内閣総理大臣となった。菅新総理は、秋田県の湯沢市秋ノ宮出身、私たちの町のすぐ隣とあって親しみを感じる。

また、故岸宏一先生とは大変親しく盟友だったと新聞報道もあり、これからの町に対しても期待感を持っている。

菅総理が目指す社会は、「自助・共助・公助」そして絆を大切にし、地方から活力あふれる日本です。私は、その国づくりに期待をしたい。

(文責・寒河江宏一)

発行責任者

■ 議会議長 柴田 清正

■ 議会広報常任委員会

■ 委員長 沼澤 道也
■ 副委員長 星川 智子
■ 委員 寒河江 宏一
 中村 忠行
 大場 洋介